

和泉中央病院

(平成 24 年 1 月 20 日訪問)

平均在院日数 262.8 日 (2011.12.31 付)

積極的な取組など

- ・ 投書への回答は病棟に設置されたファイルに綴じられていた。病院の設備や職員に対する要望などにも丁寧に回答がなされていた。また、個別対応をした個人的な相談の件数も記載されていた。
- ・ その日に勤務している職員の掲示が詰所前に顔写真付きで、勤務形態毎に表示され、分かりやすい。
- ・ 毎日、OT プログラムがあった。患者の希望に沿った個人プログラムができる曜日があり、患者からは「(その日が)楽しみ」との声があった。
- ・ 公衆電話は詰所から見えない位置にあった。

病院全体

高齢者の割合が徐々に増えているようだった。平成 18 年度精神保健福祉資料では入院患者のうち、65 歳以上 75 歳未満が 22.8%、75 歳以上が 42.5%で、平成 22 年度と同資料によると、193 名中、65 歳以上 75 歳未満が 19.7%、75 歳以上が 51.3%だった。

認知症患者の処遇について(病院の説明)

認知症患者に対しては薬を多くしてもあまり効果が見られないので、徘徊をする患者に対しては薬を多くしたり、隔離拘束などの行動制限をするのではなく、自由に病棟内を歩いてもらうようにしている。見守る職員を多くする必要はあるが、患者は体力を消費するために、夜に寝やすくなることが多い。

人権委員会・倫理委員会

意見箱はデイルームや面会室あり、意見箱の横に投書用紙が吊るされていた。回収は月 2 回、検討は月 1 回。2ヶ月に 1 回、倫理委員会がある。各部署より 2 名ずつ委員が出て、普段担当している病棟以外を回る「パトロール」を行う。療養環境として問題がないか、人権侵害が行われていないか等をチェックする。外部講師を招いた研修も行っている。

退院促進

在院期間が 5 年以上の患者を 5~10%にしたいとの説明があった(H22 年度精神保健福祉資料では 15.5%)。退院促進につながるように保健所と連携して、茶話会や地域の作業所を紹介したりしている。

金銭管理

病院に預ける場合の管理費は 1 日 100 円。患者の話しによると殆どが病院管理のようだった。

前回の訪問(平成 18 年 5 月)から改善されていたこと

- 任意入院でありながら閉鎖処遇の患者が多いことについては、大きな変化はなかった。
- 病棟内の床が固いこと、トイレの強い尿臭やトイレの数が足りないとの声があったことについては、廊下の床の張替えやトイレの改修が行われていた。
- トイレの扉が車椅子対応のものになった。

病棟の様子

病室

4 人部屋が中心で、1 病棟に 2 人部屋(1050 円/日)、3 病棟に個室(4200 円/日)もある。3 病棟以外ではベッド下や床頭台には私物が殆ど何も置かれていなかった。3 病棟も他病院に比べると私物は少なめ。

電話

デイルームの端の個室や面会室など、詰所からは直接見えない位置に設置されていた。携帯電話は家族に持ち帰ってもらうか、詰所に預けて中庭等に外出する際に受け取る。院内での使用場所は中庭で、充電は詰所(無料)と決まっていた。

1 病棟 閉鎖 男女 認知症治療病棟 60 床

職員によると「見守りの目を増やすために看護補助を正看護師と同人数(基準より手厚く)配置している。夜間帯は職員 4 名で患者が転倒しないように対応する。拘束はしない方針で臨んでいる」とのこと。

全ての患者が病院のリース服を着ていた。木綿で色は萌黄色、ピンク色、たまご色、水色、黄緑があった。ズボンと上の服と、その上に羽織る服で色の組み合わせは自由のようだった。職員によると「感染予防や清潔保持や衛生面の管理のためにリースを導入した。色は、患者自身が選びたい場合には、選んで身につけてもらっている」とのことだった。

足腰が不自由でない患者が殆どで、病棟内はとにかく動きがあった。2 人で手を繋いで、あるいは 4 人でかたまて、あるいは自分なりに歩いていた。

「おーい」と呼ぶ声が聞こえたので付近を探したところ、ベッド近くで患者が転倒していた。車椅子に移ろうとして失敗したようだった。声が小さかったこともあるが、職員の視線が動きの多い患者の方に行きがちなためか、ベッドにいる静かめの患者には気が付きにくいようだった。

トイレの扉が車椅子対応のものに改善されていた。トイレは 2 ヶ所あり、デイルームに近い方が女性用だった。見ていると、たまに男性の患者が入っていた。職員によると、男女の区別より、近いトイレを使っているのが現状のようだった。

外部の清掃職員が病棟の職員立ち会いなしで隔離室ゾーンに入り、掃除をしていた。「ここは鍵しまとるわ」と鍵の開いた部屋だけ拭き掃除をしていた。

2 病棟 閉鎖 男女 精神療養病棟 60 床

5 病棟(精神療養)で在院期間が長期化し、高齢になった患者がこの病棟に移ることが多いようだ。高齢や認知症の患者が多かった。多くの患者がデイルームの椅子に座っていた。病棟は細長く、その廊下を歩き回っている患者が複数いた。ポータブルトイレが置かれた所が多く、カーテンが引かれた状態のベッドで寝ている患者もいた。

隔離室

詰所前に 2 室。1 室は隔離、1 室は個室として使用。

患者の声

「入院して 3 年。外出は 1 度もしていない。OT には行っている」「入院して 4 年。食事はおいしい。お金は週 1 回、詰所でもらう。胸が痛く注射してもらっているが、少しも効かない」「食事はまあまあだが、量が少ない。お金は持っていない。おやつは週 1 回なので、毎日おやつが欲しい。看護師は親切。外出許可をくれない。外出できないのは辛い」「週 1 回の診察では病名についての話しは出ていない」「診察は 2 週間に 1 回。退院の話しは出ていない。家が近くなので、ときどき家に帰っている。お金は病棟内では要らない」「病院に不満がないと言えば嘘になるが、患者という立場上は言えない。看護師は親切にしてくれている」「退院の話しは出ていない。病院にまかせっきり。手が悪いので、タクシーを呼んで手の病院に連れて行ってくれる。お金は使わない」

3 病棟 閉鎖 男女 急性期治療病棟 35 床

職員によると、「週に 1 回、人前で話す練習をしている。月 1 回、患者の集団ミーティングがある。10 人位参加している。だから、話すのには慣れている人が多い。薬の説明は個別に頼めば薬剤師がしてくれる」とのことだった。プログラム表によると、週 3 日は OT 室で患者が自由に選べるプログラムがあり、週 4 日は病棟でカラオケ、茶道、ゲームが行われているようだった。携帯電話は 10 人弱が使っていた。

前回の訪問時より変わっていた点としては、喫煙室が貴重品入れのロッカー室(無料)となっていたことが挙げられる。28 個のロッカーが設置され、使用は半分程だった。

病室の入口にある名札は本人の希望で名前を書かずに数字にすることもでき、半数の名札は数字になっていた。ベッドに付いている名札には名前が書かれていた。午後 9 時に男性ゾーンと女性ゾーンの間にパーテーションで仕切られるようになっていた。入院患者数の男女比に応じてパーテーションの位置が変えられる。

外部の清掃職員数名が掃除をしていたため、トイレは消毒の臭いが漂っていた。

隔離室

4 室。状態により二重(外扉と中扉)施錠、外扉のみ施錠、日中に数時間の開放、開放と 4 段階の使用方法がある。訪問時は「日中に数時間開放」だった。

患者の声

「(H23 年 3 月から敷地内が禁煙になったことについて)以前は煙草を吸っていたが、時代やから仕方ないとあきらめた。夜吸っていたのをやめられたので良く眠れるようになり、生活リズムが好転した」「ロッカーの鍵は失くすと 200 円かかるが、中に財布を入れておくことで夜眠りやすくなった」「主食は、2 種類から選べるのでもいい。粥か食パンか菓子パンか」「月から金曜日は、主治医は毎日部屋に来てくれる。『よく眠れましたか』と聞いてくれる」「診察時、『何か変わったことはありますか』と聞かれる。ゆっくりとした時間ではありません」「院長先生とソリの合わない先生や薬剤師は辞めていった」「OT が終わった後にミーティングがある。主治医と OT の職員と一緒に退院に向けた話しをする」「午前中は太陽の光が入り、廊下は明るい。入院して 5 ケ月。退院できたらしいのになあ。家族が病院に頼んでいるので私は何もわからん。待つだけ」「運動のために毎日廊下を 6 往復している。正月はお宮さんまで杖をついて歩いて行った。念のためにと、職員が車いすを持って一緒に神社を往復した。気持ちよかった」「私は昨年に血栓で手術をしたから、無理のないよう病棟を 2 往復している。ゆくゆくは 15 往復できるようにしたい」「病室の中のロッカー(縦長型)は使いやすい。家族が来て、中を片付けてくれたり、買った物を入れてくれる。嬉しい」「廊下に写真付きで職員の名前を貼り出してあるのが分かり易い。もうちょっと笑った顔にしたらいいのに、怖い顔した写真が多いわ。でも、あるのとないのとでは違うな」「今日は偉い人が来るから、ベッドの下に物を置かないようにと言われた。あんたらが偉い人か?」「昨日から、病室の床に置いていた荷物類は、全部ロッカーに入れるように指示を受けた。床に置いてある方が使いやすい」

5 病棟 開放 男女 精神療養病棟 51 床

3 病棟(急性期治療)で在院期間が長期化した患者がこの病棟に移ることが多いようだ。患者は高齢化しており、車椅子の患者が 10 名以上いる。職員によると「家族に面会に来るように働きかけもしているが、家族も高齢化していることもあり全体的に少ない。年末年始の外泊も 6 名位だった。3 ケ月に 1 回ずつのペースで医師毎にその医師が担当している全患者の退院促進会議を開いている」とのことだった。

訪問時、OT としてカラオケが行われ、30 名程の患者がデイルームに集まっていた。また、入浴時間でもあったため、詰所横の椅子で髪の毛を乾かして

いる患者も数名いた。カーテンが引かれた状態でベッドに寝ている患者もいた。金銭やおやつなどを自己管理できる患者は 10 名以下で、午後 3 時からおやつが配られていた。

患者の声

「16 年入院している。なか繰り返し外出ができない」「本を読みたいけど、めがねを誰かに盗られてしまった。困っている」「入院 1 年目。父も精神病。妹は結婚している。世間の偏見は無くなっていないように思う。字は読めても書けない。食事はおいしい。外出は院内のみ。主治医の診察は週に 1 回。風呂は週に 3 回」「月 4 回の診察がある。退院に向けての話しも出ている。風呂は週に 3 回。食事はおいしい」

検討していただきたい事項

任意入院は原則開放処遇で

複数の患者から「外出をしたい」「外出の許可が出ない」との声があった。平成 23 年 12 月 31 日時点では、任意入院患者 70 名のうち院外まで外出できる患者は 44 名、院内のみ外出できる患者が 4 名だった。(病院:急性期治療病棟入院中の任意入院の患者に関しては、入院当初のこともあり、状態把握の意味で開放処遇制限が必要な場合がある。当院の急性期病棟は在院日数が 50 日前後と短く、そのことが退院後の社会的生活に支障をきたすことは特にないと思われます。また量料病棟の患者においては、

高齢化により院外への外出に関して事故の危険なども考えられ、そのことなどから開放処遇制限をしていますが、作業療法の強化、SSTなどの実施により、積極的な退院支援をおこなっています。)

おたずね

- 薬の渡し方はどのように行われていますか？(病院:全病棟ベッドサイドで与薬を行っています。)
- 病院の金銭管理を利用している患者は何名おられますか？(病院:195 名中 153 名 (78.5%))
- 病棟のベッド周り等には私物が少なかったのですが、「私物置場」があるのでしょうか？1 人当たりの置ける量は、決まっているのでしょうか？(病院:ベッドサイドに置く衣装ケースは一人1ケースを基本としている。単身の方等は、病院の倉庫で預かるが、極力私物は少なくして頂いる。)

精神保健福祉資料より (平成 23. 6. 30 時点)

192 名の入院者のうち、認知症など症状性を含む器質性精神障害が 105 名(55%)、統合失調症群が 59 名(31%)、気分障害が 18 名(9%)。入院形態について 70 名(36%)は任意入院、122 名(64%)が医療保護入院。在院期間が 1 年未満の患者が 100 名(52%)、1 年以上 5 年未満の患者が 68 名(35%)、5 年以上 10 年未満の患者が 13 名(7%)、10 年以上 20 年未満が 11 名(6%)。